

『通いの場』通信

Vol.14

令和元年11月30日発行

参加者のべ
212名!

支え合いのまちづくり 地区フォーラム

～今年も 倉敷・水島・玉島・児島4か所で開催!～

『テーマ』

- 今なぜ支え合い・助け合いが必要なんだろう？
- わがまちだからできる支え合いを考えよう！

今回の地区フォーラムは三部構成！

- 【第1部】公益法人さわやか福祉財団の高橋 望先生の基調講演
 - 【第2部】各地区の支え合い活動の実践発表
 - 【第3部】参加者同士のグループワーク
- 1部～3部を通して、それぞれの地区での「地域が輝く支え合い像」を共有しました。

▼各団体の取り組みの話に耳を傾ける参加者



★基調講演のポイント★

年を重ねても、認知症になっても、障がいがあっても、住み慣れた地域で最後まで心豊かに暮らしたい。

まず、心と体が元気であることが必要。

「心と体」が元気であるために

- 出歩く人ほど元気
- お話できる環境にある人ほど元気
- 役割がある人ほど元気

「地域には誰にも役割があり出番がある」

- 「役割」は地域の世話役というだけではない。
 - 出歩く・しゃべる・あいさつ・楽しむ。（←普段していることにも実は大きな意味がある！）
- ふれあいの中で「楽しさ」と「いきがい」が生まれる。

誰にも役割・出番があるから、支えられる側・支える側の一方通行ばかりでなく、お互いに支え合うことができる。「支え合い」は楽しいもの。しゃべり場からできる楽しいこと＝地域が輝く支え合い。



講師：さわやか福祉財団
高橋望氏

各地区で報告された支え合い活動

倉

中庄ハイツ外出支援ボランティア
『ひまわり』の活動

中庄ハイツは45年前ごろできた高台にある団地。
住民のほとんどが一緒に年を重ね、高齢化が進む。

活動のきっかけ
・この団地、集まるところないなあ
・外に行くの大変になってきたなあ

「自分が行くついでに一緒に買物してくるとか葬式に乗り合わせていくのは、もうやっている」

「でも、やっている自分も高齢者。いつかできなくなったときのために次の誰かが誰かを支える仕組みがぜったいいる！」

→「仲間と出会う」：学区の支え合いを考える勉強会に参加。

→「呼びかける」：関心のある人が参加してくれるように、押し付けにならないように。

→「作戦会議はワイワイガヤガヤ」：楽しいサロンのよう。

→「仕組みづくりへ」：運転できるよ♪(運転ボラ)
運転はできんけど助手席に乗って周りの確認とか、おしゃべりできるよ♪(付き添いボラ)

手作りの移動支援誕生しました！

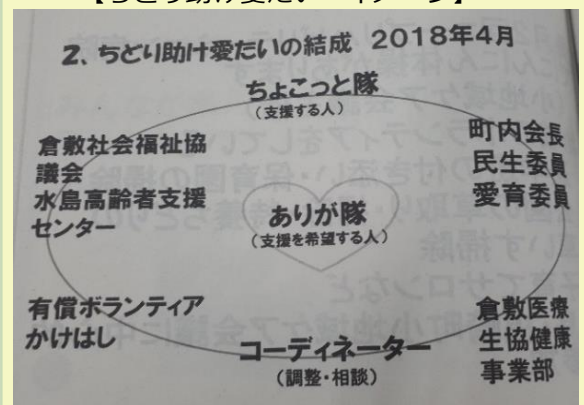
「ご近所のちょっと
困ったの助け合い」
『ちどり助け愛たい』

NPO法人かけはしさんの生活支援サービスの活動の中で見えてきた千鳥市営住宅と千鳥町の困りごと。高齢独居者が多いが、市営住宅（高層）には階段がないから荷物を持って上がるのが大変などの

「ご近所でのちょっと困った」を地域の方と一緒に助けたり助けられたりしよう！」から始まった活動。

毎月、関係者が集まり仕組みや困りごと発見・広報・養成講座・支援活動などについて話しあいました。

【ちどり助け愛たい イメージ】



兎

「非常時のつながりは
平時のつながりがあってこそ」
唐琴自主防災組織の取組み

いつ逃げるか、誰と逃げるか、逃げるスイッチは誰が押すのかを意識した組織を作った。平素から**特別に何かをしなくても繋がれる「向こう3件両隣」を大切に**した。(気負わない関係の大拙さ)



玉

「助けたり助けられたり」
ぶどうの家BRNCHでの取組み

発災後介護保険事業所が再建するまでの間仮設事業所としていた建物を**地域の方に開放された『場』**がぶどうの家BRNCH。お茶を飲み、物資や情報を得に、誰かに会いに...と集まった人たちが、おしゃべりしたり、備え付けのキッチンで持ち寄りの食材でご飯を作って食べたり。その輪が広がって繋がってできたのが、「味噌汁ご飯の会」「縫い真備」「ありが隊・助け隊（お互い様の相互支援）」などの様々な活動。誰でもふらっと立ち寄れる場であるとともに誰でも活躍できる場。おしゃべりからいろんなことが生まれている。

支え合いを広げるために… 地域の「声」や「夢」に
生活支援コーディネーターが寄り添います！お気軽にお声かけてください♪